

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

肝炎医療コーディネーターの院内連携に関する研究

研究分担者 玄田拓哉  
順天堂大学医学部附属静岡病院消化器内科 教授

**研究要旨：**院内肝炎医療コーディネーター（Co）連携のモデルとして、肝炎ウイルス検査陽性者受診率向上を目的とした連携システムを構築した。非専門科病棟と消化器内科外来所属肝炎医療 Co 連携パス、検査肝炎医療 Co から肝疾患相談支援センター肝炎医療 Co への情報集約システムなどを運用した結果、院内検査で見出された肝炎ウイルス検査陽性者の消化器内科受診数増加が確認された。このように、院内肝炎医療 Co の連携が、肝炎ウイルス検査陽性者に関する院内問題を解決する一助となる可能性が示唆された。

**A. 研究目的**

院内各部署に配置された肝炎医療コーディネーター（Co）同志の連携が、肝炎ウイルス検査陽性者に関する院内問題の解決に寄与しうるかを検討する。

**B. 研究方法**

院内肝炎ウイルス検査陽性者の動向を調査、院内各部署に配置された肝炎医療 Co の連携を構築し、専門科受診状況の変化を解析した。

**C. 研究結果**

病床数 577 床の当院に 1100 名を超える職員が勤務しており、その中で看護師を中心に令和 2 年度末までに 22 名の肝炎医療 Co が養成された。一方、当院における 2018 年 1 月から 12 月に行われた HBs 抗原検査 18117 件、HCV 抗体検査 17921 件の検査結果を確認したところ、それぞれ 145 件（1%）、331 件（2%）の陽性者が確認された。これらの陽性者の専門科（消化器内科）受診歴を確認したところ、受診率はそれぞれ 47%、32% であり、半数以上の陽性者が消化器内科受診に至っていないことが判明した。この状況を改善するため、まず非専門科病棟と消化器内科外来に配置された肝炎医療 Co の連携パスを作成した。このパスにより、非専門科に入院した患者は退院時に病棟肝炎医療 Co による肝炎ウイルス検査結果確認後、陽性者は消化器内科受診勧奨を受ける。また、陽性者情報は消化器内科外来配置肝炎医療 Co に伝わり、受診状況確認が行われる。この非専門科病棟-消化器内科外来連携パスは 2019 年 12 月から 2020 年 4 月までの 5 か月間運用したが、実際に消化器内科受診に至った陽性者は 1 名のみであった。このため、検査室に配置された肝炎医療 Co と連携し、肝疾患相談支援センターで院内肝炎ウイル

ス検査陽性者情報を一元管理できるシステムを構築した。検査室から定期的に提供される陽性者の臨床情報を肝疾患相談支援センター所属の肝炎医療 Co が確認し、消化器内科医師と相談の上受診勧奨が必要な患者を抽出、電子カルテに担当医宛注意喚起と受診勧奨依頼を記載した。また事務部門所属肝炎医療 Co に依頼して医療安全講習会を開催し、肝炎ウイルス検査結果見落としの医療リスクに関する情報を院内に周知した。これらの活動の結果 2020 年 5 月から 12 月の 6 か月間で 23 人の陽性者受診が確認された（図）。

院内陽性者受診勧奨の結果

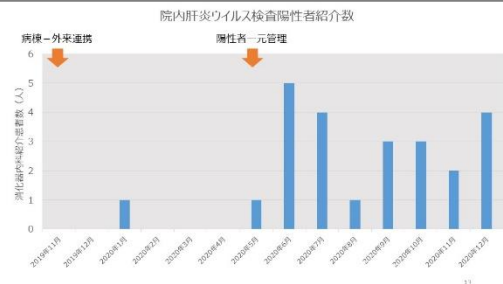


図 院内肝炎ウイルス検査陽性者の消化器内科受診数推移

**D. 考察**

院内各部門に配置された肝炎医療 Co の連携を構築することで、院内検査で見出された肝炎ウイルス検査陽性者を専門科受診に誘導することが可能であった。特に、検査室と肝疾患相談支援センター連携による陽性者情報一元管理は有用と考えられた。今回のケースのように、肝炎ウイルス陽性者に関する院内問題を院内各部門に配置された肝炎医療 Co で共有し連携を構築することは、問題解決に有用であることが示唆された。

**E. 結論**

院内肝炎医療 Co 連携により、肝炎ウイルス検査陽性者の受診状況を改善することが可能である。

**F. 健康危険情報**

なし

**G. 研究発表**

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況**

1. 特許取得  なし

2. 実用新案登録  なし

3. その他  なし